



2019年11月

パテック フィリップ ジュネーブ

**パテック フィリップ・ウォッチアート・グランド・エグジビション（シンガポール2019年）、
これまで最高の来場者数を記録**

ドバイ（2012年）、ミュンヘン（2013年）、ロンドン（2015年）、ニューヨーク（2017年）に続く、第5回パテック フィリップ・ウォッチアート・グランド・エグジビション（シンガポール2019年）は、16日間にわたり開催され、これまで最高の6万8,000人に上る来場者数を記録してこのほど閉幕した。2年間の準備期間を要したこの史上最大のグランド・エグジビションは、一般公衆に時計製作芸術への理解を促し、ジュネーブ最後の独立した家族経営の時計マニュファクチュールの世界に浸る希少でユニークな機会を提供したものと見えよう。

会場となったプレステージ溢れるマリーナベイサンズ・シアターは、1,000席以上の座席が取り払われ、広さ合計1,800㎡におよぶ10のテーマ・ルームが設けられ、400点を超える例外的なタイムピースが展示された。特に注目すべきハイライトは、ジュネーブのパテック フィリップ・ミュージアムが所蔵する120点の歴史的なタイムピースと、パテック フィリップによって作成された最も複雑な時計（キャリバー 89、スターキャリバー 2000）を含む、パテック フィリップ時計の完全なコレクションであった。

ウォッチアート・グランド・エグジビションは、25か国以上のメディアやVIPを含む、東南アジアおよび世界中からの見学者たちを魅了した。9月28日から10月13日まで公開されたシンガポールのウォッチアート・グランド・エグジビションは、これまでパテック フィリップが開催した中で最も長期間にわたるものであった。彫金、七宝、木象嵌、ギョシェ装飾など、ウォッチアートの最も高度で希少なハンドクラフト技術に習熟した職人たちによって豪華に装飾されたドーム・テーブルクロック、テーブルクロック、懐中時計、腕時計の多彩なコレクションにより、グランド・エグジビションは、時計製作芸術の保護育成に努めるパテック フィリップへの関心をさらに強化するであろう。

「品質は、何世代にも渡って追求されるべき不可欠な価値であると考えており、当社は常に品質を追求しています。ウォッチアート・グランド・エグジビションを開催する主な目的は、真に人々を教育し、新参の方々やコレクターに情熱を与えることです。パテック フィリップとシンガポールの歴史上、商業上の関係は長く、世代から世代へと受け継がれてきています。ジュネーブのマニュファクチュールをここシンガポールに再現するのが望みでした。私たちが創作したのは非常にユニークな展示会です。見学者の数と水準に大きな感銘を受けました。多くの方々は、クラフトマンシップと技術的な側面について高いレベルの知識を持っていました。」とパテック フィリップ社長ティエリー・スターン氏は語っている。

シンガポール200周年を記念し、パテック フィリップは特別に構想されたテーマルームと装飾、そして東南アジアの歴史、文化、遺産を反映した特別な展示コレクションにより、シンガポールとその近隣諸国に敬意を表した。シンガポールにおけるウォッチアート・グランド・エグジビション開催を記念するため、東南アジアとシンガポールの文化的、芸術的表現からインスピレーションを得た6点のスペシャル・エディションと多数の希少なハンドクラフト・タイムピースのコレクションが発表された。シンガポール2019スペシャル・エディションのミニット・リピーター・トゥールビヨン5303R-010モデルは、9月27日の国際プレスデーで初めてベールを脱いだ。これはチャイム機構の作動するハンマーとゴングを文字盤側から鑑賞できるオープン・アーキテクチャーを備えたまったく新しいグランド・コンプリケーションであり、今一度、時計製作のブレイクスルーとなるものである。

パテック フィリップが強く信じる家族的価値観を強調するため、ウォッチアート・グランド・エグジビショ



《報道資料》 ページ 2

ンは2回の日曜日にファミリーデーを開催し、タイムピース愛好家に、家族や若い世代と情熱を共有する教育の機会を提供した。若い人々は、「タイムトレジャー」宝探し、カラーリング、時計タトゥーなどの一連のインタラクティブな活動を通じてパテック フィリップの世界を発見し、他の人々はパテック フィリップの時計職人チームが率いる機械式時計製作ワークショップに参加した。子供サイズの時計職人の上着を着た児童たちは、時計が機能するよう、さまざまな部品と歯車を配置するプロセスを学んだ。

パテック フィリップは、開催中に展示されたタイムピースを紹介する限定版の記念カタログを刊行した。カタログの販売収益は、シンガポールの芸術と遺産の保存を支援するため、シンガポールの国立博物館に寄付される。

ジュネーブ・マスタータイム・マーケティングLLPのジェネラルマネージャー、ディーパ・チャトラス氏は、次のように述べている。「ウォッチアート・グランド・エグジビションをシンガポールで開催することが発表された時、高揚感がありましたが、同時にこの規模のイベントを開催することは大きな名誉であり畏怖の念もありました。この展示会は、シンガポールのダイナミックな精神と、この地域に拠点を置くコレクターと愛好家の強力な組み合わせへのオマージュとして計画されました。長期的な価値、伝統、革新、職人技のメッセージを伝えるには、クライアントと一般の人々のいずれもが不可欠です。この展示会が、新しい世代に将来この業界で働き、顧客となるモチベーションを与えたことを念願しています。」

ウォッチアート・グランド・エグジビション（シンガポール2019）は、パテック フィリップ本店の歴史的サロン、本社工房、世界的に有名なミュージアムという、ジュネーブを本拠とした環境を完璧に再現した入場無料の公開展示会であった。この展示会は、この地域の人々のクラフトマンシップと機械式時計製作に対する深い愛情からインスピレーションを得ている。パテック フィリップは、ミュージアムの作品を通じて、最も明晰な頭脳と知識と技術を凝縮し、時を超越した美しさと精度を誇る、携帯時計の500年の歴史を描き出した。

パテック フィリップは、ウォッチアート・グランド・エグジビションの第6回エディションが2022年に東京で開催されることをお知らせする。

数字で見たウォッチアート・グランド・エグジビション（シンガポール2019）

設置にかかった日数：	23日
解体にかかった日数：	8日
プロジェクトの計画にかかった期間：	18～24か月
設置および解体のためのスタッフ数：	130名
コンテナの数：	25
ケーブルの長さ：	35キロメートル
展示時計点数（ミュージアムの作品を含む）：	400点以上
歴史的タイムピースの点数：	120点以上
総見学者数：	6万8,000人
展示期間：	16日（一般公開）、2日（プレス・VIPのみ）
ファミリーデー：	2日
時計製作ワークショップの回数：	26回（2回の週末、すなわち土・日曜）
劇場の座席数合計：	2,183席
展示のために取り外された座席の数：	1,189席



パテック フィリップについて

パテック フィリップは、180年以上にわたって中絶することなく、ジュネーブの時計製作の伝統を永続させてきた。ジュネーブの最後の独立した家族経営の時計マニュファクチュールとして、完璧な創造の自由を享受し、創業者アントワーン・ノルベール・ド・パテック（1839年生まれ）とアドリアン・フィリップ（1845年生まれ）のビジョンに基づき、専門家が一致して世界最高と認める時計を完全に設計し、製作し、組み立てている。その比類のない技術・ノウハウにより、パテック フィリップは、驚異的な100件以上の技術特許が立証する、革新の伝統を保持している。1932年以来、スターン家の指導の下、パテック フィリップは時計製作技術と材料工学研究の最先端を歩み続け、時計の長期的な品質と信頼性の改善に継続的に貢献している。

ジュネーブ・マスタータイム・マーケティングLLPについて

ジュネーブ・マスタータイム・マーケティングLLP（GMT）は、パテック フィリップの時計とジュエリーの総販売代理店であり、パテック フィリップの子会社としてシンガポールで設立された。パテック フィリップとシンガポールの歴史上、商業上の関係は、1965年、フィリップ・スターン氏が販売ネットワークを構築する計画を持ってシンガポールに旅行した時に始まり、その結果、最初の2店のマルチブランド販売店との契約が調印された。GMTは、パテック フィリップ ジュネーブ本社の指導の下、2008年に正式に設立され、現社名となった。現社名は、パテック フィリップ時計の起源とその優れた時計製作技術を示すために選択された。

その市場はシンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピンにまたがっており、パテック フィリップが売上と可視性において主要ブランドである26の販売店を統括している。また9つのパテック フィリップ ブティックは、この地域の首都の最も象徴的な場所に位置している。GMTは、パテック フィリップが東南アジア地域で享受してきた指導的地位を保持し、強化する責任を負っている。

《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

A D & P R ディレクター

大塚和泉

電 話：03-5209-8018（直通）

F A X：03-3256-7558

izumi@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03-3255-8109

パテック フィリップ ホームページ：<https://www.patek.com/jp/>

